

# 在宅看護学臨地実習

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：90時間

■**科目のねらい**：在宅で療養している人とその家族の健康と生活に対する援助の実際を理解する。また、地域包括ケアにおける保健・医療・福祉ネットワークと専門職の役割および支援の実際を学ぶ。

- 到達目標**：①対象者と家族を、健康および生活の両面から全体的に捉えられる。  
 ②地域や在宅環境の特性に応じた援助の実際を理解できる。  
 ③介護予防における看護職の役割について捉えられる。  
 ④地域ケアシステムを構成する関係機関および専門職の活動と連携について理解できる。  
 ⑤看護学生として責任ある行動と態度を実践できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎菊地 ひろみ・スーディ神崎 和代・御厩 美登里

■**授業計画・内容**：

2週間の実習期間の中で、訪問看護ステーション・療養通所介護事業所のいずれかにおいて1週間、地域包括支援センターもしくは居宅介護支援事業所において1週間の実習を行う。

詳細は「在宅看護学臨地実習要項」を参照のこと。

<実習施設>

- ・訪問看護ステーション・療養通所介護事業所 17施設
- ・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所 26施設

■**教科書**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論で使用した教科書

■**参考文献**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論で配布した資料

■**成績評価基準と方法**：実習の取り組み状況、カンファレンス・学内演習の内容、実習記録、レポートにより実習目標の達成度を総合的に評価する。実習指導者の評価と担当教員の評価を合算する。2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤		
実習記録	○	○	○	○	○	記録内容の適切性、事前・事後学習の妥当性	20%
レポート	◎	◎	○	◎	○	レポート内容の適切性・妥当な記述量	25%
実習カンファレンス	◎	◎	◎	◎	○	発表内容・ディスカッション内容の適切性	25%
学内演習	◎	◎	◎	◎	○	発表内容の適切性	20%
実習態度	○	○	○	○	◎	実習に対する積極性、実習中の態度・発言	10%
出席						2/3以上の出席	欠席数、遅刻・早退に応じて減点

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：対象者の生活の場に足を踏み入れることを熟慮した言動が不可欠です。対象者の協力のもとに実習が成立していることを自覚し、積極的に行動し、在宅看護の実践から多くを学び取ることを期待します。